

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.

vol. 82
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン



まちづくり協働プラザとは？

NPO法人をはじめとする市民活動団体を育成・支援するために、平成16年1月に、「徳島市市民活力開発センター」が設置されました。現在は「徳島市まちづくり協働プラザ」に改称し、徳島駅前アミコビル2階にて、協働によるまちづくり活動及び市民活動促進のための業務を行っています。

開館日

火～土曜日 10:00～21:00 / 日曜・祝日 10:00～18:00

休館日

月曜日 ※月曜日が祝日にあたる場合はその翌日
年末年始

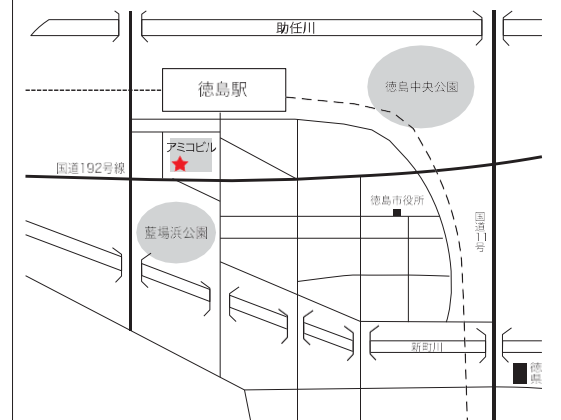
連絡先

[TEL] 088-611-3886
[FAX] 088-624-3860
[mail] machipura.tokushima@gmail.com

HP



ACCESS MAP



所在地

〒770-0834 徳島県徳島市元町1丁目24 アミコビル2階

お車・バイク・自転車で越しの方

アミコラインパークの駐車場・駐輪場、もしくは周辺のコインパーキングをご利用ください。



マネージャー 岸田 侑

助成金申請のサポートや、NPOと行政、NPOと若者とのマッチングなどに注力しています。ぜひご利用ください。



事務局長 長谷川 隼

広報誌や会計事務を主に担当しています。会議室や機材の利用、お悩み相談でも、いつでも気軽にお越しください。

PASSPORT.

発行月：2022年11月 号数：82号 発行：徳島市まちづくり協働プラザ
この広報誌に関するご意見、ご感想は、発行元であるまちづくり協働プラザ
(088-611-3886)までご連絡下さい。

イベント情報大募集！！

PASSPORT.への掲載や、メールマガジンでの配信、徳島市市民活力開発センターの掲示板へ配置させていただく情報を随時募集しております。「取材に来てほしい!」「こんなイベントするよ!」といったお声をお待ちしております!!



徳島市まちづくり協働プラザ 事業紹介



「ぷらざタウン」とは、小学4〜

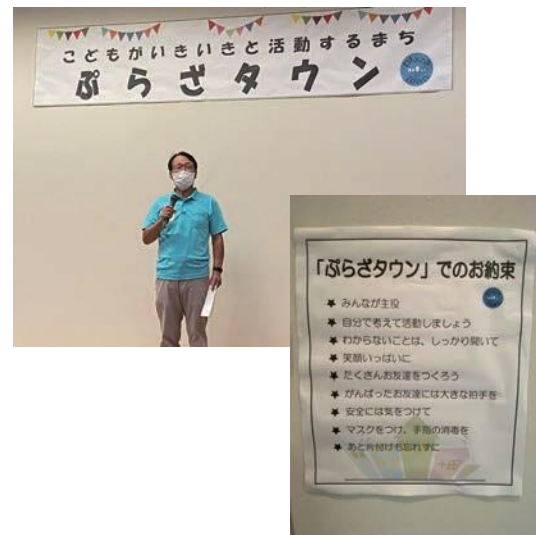
6年生とその保護者に向けて、徳島の団体や活動についての理解と参加促進を伝える活動体験イベントです。主催は『とくしま県民活動プラザ』『徳島県社会福祉協議会』と連携し、『徳島市まちづくり協働プラザ』を含む3団体の共催で実施しました。体験活動の講師役を担う団体は「認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・徳島」と「認定NPO法人グリーンバード・徳島チーム」、「徳島テーブルマジックの会」の3団体で、令和4年8月27日に開催しました。

深まるネットワーク

各団体は、今回のイベントをきっかけに子どもたちが市民活動に参加したり、続けて参加したりしてもらうために、「体験そのものの楽しさ」あるいは「体験を通じた人との関わりやすさ」を当日参加する子どもたちに感じてもらうよう、準備してきました。本番までの準備では、「子どもたちが市民活動に関わる起点となるイベントであること」を掲げ、団体間で協力しながら、関わりを深めていく場となりました。

本番当日

本番当日は、小学生10人、保護者10人の合計20名が参加しました。活動体験後の参加者からは満足度の高さを表す声が多く聞かれたほか、このイベントで関わったNPO団体の活動へ継続的に参加している子どももいるとのことで、当初の目的であった市民活動へ関わる起点を創出することができました。



団体紹介

認定 NPO 法人グリーンバード・徳島チーム
(清掃ボランティア団体)



↑〇× クイズ、ごみ拾い体験の様子

認定 NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・徳島
(知的障害のある人たちにけたスポーツ団体)



↑ポッチャの様子

徳島テーブルマジックの会
(テーブルマジックをメインにしたサークル)



↑マジックを披露している様子

グリーンバードに取材！

参加団体のひとつ「グリーンバード徳島チーム」は、まちづくり協働プラザの「ボランティア体験講座」として活動を実施しています。グリーンバードの魅力を子ども達に発信してくれた高校生・大学生4人のうち、2人にインタビューをしました！

難しかったことは？

ゆら 私は、司会進行をするタイプではないのですが、今回グリーンバードのブースの司会役に挑戦しました。来てくれた子どもたちに向けて、40分という短い中、楽しんでもらうかつ、グリーンバードの魅力を過不足なくわかりやすく伝えることが難しかったです。

ひとみ 企画を立てて、計画を練る過程が一番大変でした。大学生になり様々なイベントに参加したいと思っていましたが、コロナの影響でほとんどイベントがなく、こんな子どもとがつり関わるイベントは初めてでした。

それをどう乗り越えましたか？

ひとみ みんな、イベントを企画するのが初めての経験でしたが、岸田さん（徳島市まちづくり協働プラザ）がミーティングのときに道筋を立ててくださいました。それがなかったら、「どうしよう」で止まっている部分が多かったと思うし、こんなに子どもたちに楽しんでもらえるイベントにならなかったと思います。

ゆら 最初は司会進行はその時の雰囲気でしょうと思っていましたが、一言一句全部考えてメモしました。岸田さんから、現在小学校の先生を勤めている方を紹介していただき、小学生の考え方や、小学生に伝わりやすい声の掛け方、聞きやすい言葉遣いなどを教えてもらいました。

当日の子どもたちの様子は？

ひとみ ごみ拾い体験が盛り上がりすぎて時間があっという間に過ぎました。私たちが思っている以上に楽しそうで、宝探しゲームをしているみたいでした。しゃべりながらおそうじをするグリーンバードだからこそ、嫌々そうじをしなかったのかなと思います。

ゆら ごみだけではなくて、虫や猫などの生物にも目がいて、みんなで輪になって見ていたこともありました。みんな初めましてで距離感があった子でも、それがきっかけで話が弾み、仲良くなっていくなりました。

嬉しかったことはありますか？

ゆら 参加してくれた子どもたちの中の一ひとりが、後日グリーンバードに足を運んでくれたことです。しかも、一回だけではなく何度も参加してくれています。当日楽しんでもらうのはもちろん、「グリーンバードに参加してもらおう」ことが最終目標だったので、それが実って嬉しかったです。

ひとみ あとは、参加者の女の子から最後に手紙をもらったことも、本当に嬉しかったです。やってよかったなと実感しました。





分別を呼びかける理由

エコブースでは、燃えるごみ、燃えないごみ、缶、ビン、ペットボトル、ペットボトルの蓋、割り箸・串、生ごみの8種類の分別を呼びかけました。また、「男女の友情は成立するか、しないか」といったような学生向けの投票形式のごみ箱を一部設置するなど、ごみを捨てたくなる工夫を行いました。

このように、手間のかかる細かい分別をするのには理由があります。それは、エコブースで回収したペットボトルを『有限会社ハイプラ』に引き取ってもらい、再資源化するためです。そのため、エコブースではペットボトルを本体・ラベル・蓋の3つに分けて分別をお願いしました。4日間で集まった、30袋のペットボトルはすべて再資源化することができました。

阿波おどり ごみ回収分別エコブース

まちプラ事業紹介②

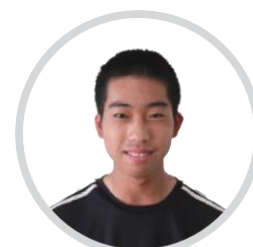
ボランティア体験講座

3年ぶりに市街地での開催となった徳島市の阿波おどり。コロナ以前と同様に街中での屋台出店が行われることが決定しました。毎年多くの人々が訪れ賑やかになるお盆ですが、来場客数に比例してたくさんのごみが出ます。そこで、**会場内にエコブースを3ヶ所設置し、ごみ回収と分別啓発に取り組む活動を行いました。**運営はボランティアで行われており、ボランティアの統括を行った3人のリーダーに密着しました。

取材に答えてくれた、ボランティアリーダー！／



中井 里沙（りさ）
徳島大学1年



木村 尚暉（なおき）
科学技術高校1年



佐野 愛斗（まなと）
徳島大学1年



“人” がいる意味

エコブースで、手間のかかる分別に快く協力してくれたお客さん。一方で、エコブースを離れたところにあるごみ箱には、入りきれていないごみが溢れかえっているのを何箇所も目にしました。分別もされていない状態です。

まなと 分別されていないまま捨てているのを見て、これが「僕らが分別を呼びかけている意味」「人がいる意味」だと感じました。

人がいなくても、ごみ箱があれば成立立つエコブース。しかし、分別の呼びかけを人から人に直接お願いすることが大切だったのかもしれない。



阿波おどり会場を支えた”支えるあほう”

「分別のご協力お願いしまーす！」
「燃えるゴミはこちらですー！」
踊るあほう、観るあほうで徳島のまちに活気と熱があふれる中、支える阿呆がエコブースでごみの分別を呼びかけます。お祭りの屋台から出るたくさんのごみがまちにポイ捨てされないように、ごみの回収に取り組みました。活動に協力してくれたのは、延べ80人のボランティア。県内の高校生や大学生に加え、市役所の若手職員が集まり、4日間懸命に取り組みました。



リーダーとして

夏の蒸し暑さや、鳴り物の音や人の声にかき消されないように、大きな声で分別を呼びかけたエコブースは想像以上に大変だったそうです。それでも3人のボランティアリーダーは、共にボランティアをするメンバーと少しでも関係性をつくり、協力しながら現場を回したり、率先して声掛けをしたりしました。活気あふれる現場の裏側には、そんなリーダーの尽力がありました。

ごみ袋の数	
燃やせるごみ	90 袋
燃やせないごみ	108 袋
缶	33 袋
びん	13 袋
ペットボトル	30 袋
キャップ	12 袋

まなと 懸命に呼びかける中、たくさんの方が声をかけてくれました。「お疲れさま」「ありがとう！」「頑張ってるね」という言葉が、本当に嬉しかったし、やりがいを感じられました。

きむ エコブースが終わり、メンバーが笑顔で帰ったら、リーダーとして成功したなと思いました。この活動に関わって良かったなと思います。

りさ 私たちリーダーの姿を見て、「来年は私もリーダーします！」「言ってくれたときは嬉しかったです。自分が影響を与えられたんだあって。」



来場者数

	8月12日	8月13日	8月14日	8月15日
水際公園	673	490	633	578
ふれあい橋	710	530	650	609
藍場浜公園	631	449	616	546
1日あたりの合計	2014	1469	1899	1733
		全日程合計		7115人

まちプラ事業紹介③

協働講座

徳島県庁 NPO法人短期研修

【講師】岸田 侑 まちづくり協働プラザ マネージャー

2022年10月25日、26日に「徳島県庁 NPO 法人短期研修」を実施しました。どんな研修をしたのか、参加者の様子などをご紹介します。

徳島県庁では、県内のNPO法人の実情を新規採用職員が把握することを目的とした「徳島県庁NPO法人短期研修」を行っています。まちづくり協働プラザも受け入れ先となり、今年は8名の職員を受け入れました。

2日間の研修プログラムでは、NPO法人の状況を知るための講義、市内中心部の清掃活動体験、またSDGsの必要性を学ぶワークショップを実施し、SDGsの重要性やNPO活動への理解を深めました。

県内のNPO活動に関する講義



中心市街地の清掃活動体験



ポイ捨てされたごみや落ち葉を拾ったり、コケ、雑草などを取り除いたりしました。

SDGsを学ぶワークショップ



参加者のみなさん、お疲れ様でした。もし今後NPOと関わる機会があればぜひまちプラへお越しください。またお会いできるのを楽しみにしています。(岸田)



2日間とも、午前中は講義とワークショップを行い、午後は清掃活動に取り組みでもらいました。講義では、参加者同士の議論や振り返りの時間を設け、NPO法人に対する認識や、SDGsと自身の業務の関連性について理解を深めました。すべてのプログラム終了後、参加者に感想を伺ったところ、「NPO法人と協働する上でのポイント」「SDGsの本来の意味」「現場での活動の大切さ・大変さ」などについてポジティブな意見が挙がりました。